

日本医師事務作業補助研究会 北海道支部 活動報告

第1回 実務者のための医療事務作業補助支援セミナー ～カルテを読むヒント～

日時：平成27年6月20日（土）14時～17時

会場：札幌駅前ビジネススペース

日本医師事務作業補助研究会 北海道支部では、北海道の医師事務作業補助者の啓発・発展のため、平成26年4月より活動を開始しています。医師事務作業補助者の定着には、病院管理者の理解が必要であると考え、本年4月に病院管理者や配置管理者、医師を対象とした管理者セミナーを開催しました。

この度、実務者の知識や実務レベルの向上を目的とした、実務者セミナーを開催しましたので、ご報告致します。

第1回として、4月に新入職員を迎えられたご施設も多いことから、医学用語の基本を習得「カルテを読むヒント」をテーマにしました。当日は、道内各地より79名の実務者の方々にご参加いただきました。管理者セミナーに参加された上司の方より、実務者セミナーへの参加を勧められ、参加された方もいらっしゃいました。

実務者講演

■カルテを読むために必要な医学用語概論■

手稲溪仁会病院 医療秘書課 課長代理 南木 由美



生命兆候・身体関連

- VS (vital sign) バイタルサイン
 - BP (blood pressure) 血圧
 - sBP：収縮期血圧 dBP：拡張期血圧 sBP/dBP
 - P (Pulse) 脈拍
 - BT (body temperature) KT (Korpertemperature・独) 体温
 - R (respiration) 呼吸数
- SpO₂ (saturation of percutaneous oxygen) 酸素飽和度
- BW (body weight) 体重
 - ※DW (dry weight) 乾燥体重・・・
 - 透析後の水分を取り除いた後の体重(目標体重)

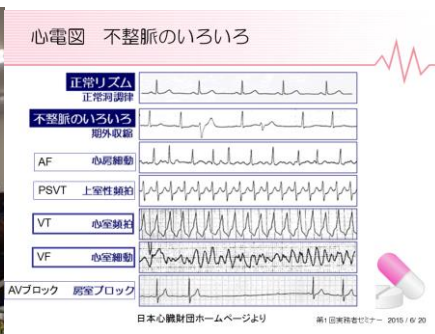
JSMOA Hokkaido.2015

医師より指示を受けるにも、カルテから情報収集するにも、会話を理解するにも、医学用語を習得していることが必要となります。バイタルや血ガスなど、院内で良く目や耳にする用語を、全診療科に共通する医学用語を広範囲に習得できました。

実務経験のある参加者の方からも「基本から学び直すことができた」とのお声をいただきました。

■循環器内科のカルテをのぞいてみよう■

心臓血管センター北海道大野病院 メディカルクラーク科 課長 渋谷 由美子



日付	S・・・症状	O・・・	他覚的所見	レントゲン	心エコー	冠動脈造影	検査結果	ステント治療内容	A・・・医師の判断	P・・・計画	医師サイン
2015/05/22	胸痛、呼吸困難、発汗、意識不明	脈拍 120/分、血圧 100/60mmHg、SpO2 92%	心音正常、呼吸音正常	胸部X線 異常なし	心エコー 異常なし	冠動脈造影 異常なし	血液検査 異常なし	左前降支にステント留置	急性冠症候群	急性冠症候群	急性冠症候群

実際の紙カルテで、事例を紹介しながら、診療記録の概要 SOAP、心電図や心臓エコー検査の所見など、医師事務作業補助者がカルテを読み取る際のポイントを習得できました。

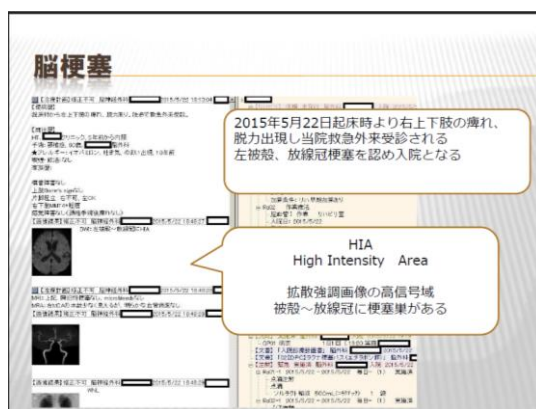
紙カルテの場合、電子カルテにはない、医師の文字のクセも含めて、読み解かないといけない難しさを知りました。

紹介状の返書の習得は、過去に医師が記載した返書を収集し、読み、傾向を掴むことで、医師の個性に合わせた返書を作成することが可能になったそうです。

「新人教育はどのように行っていますか？」という質疑には、「新人看護師向けの勉強会に参加したり、先輩の医師事務作業補助者の指導を受けたり、わからないことは看護師に確認しています」と返答されていました。

■脳神経外科のカルテをのぞいてみよう■

札幌白石記念病院 医局秘書室 寺澤 由香



実際の電子カルテから、脳神経外科の代表的な疾患について、医師の診療録をわかりやすく解説していただきました。そこからどのように診断書やサマリーに記載するのか要約の仕方を学びました。

カンファレンスに参加することによって、日々画像の読み方を学んでいるそうです。座長を務められた札幌白石記念病院 高橋 明 副院長は、「脳外科にとって画像は重要で、医師事務作業補助者が画像を読めるようになると仕事が半分できたも同然」とおっしゃっていました。

医学レクチャー

■循環器を知る■

札幌白石記念病院 循環器内科 藤井 徳幸 先生



医師事務作業補助者との仕事

- 共感して、協調したい
 - 個々の患者への対応
 - 急患・重症患者への対応
- ドクター側も協調が必要
 - 補助してもらう事を前提として
 - 分業する範囲を決めておく
 - 診断病名・治療状況・経過などを整理
 - カルテ記録は情報を共有できるような書き方

医師の負担軽減が生む効果

- 体調と気持ちの余裕
 - ミスの減少、確認やコミュニケーションの向上
 - 時間の余裕
 - 十分な患者説明・対応
 - 手術・治療の予習・準備
 - 難しい判断に対する熟考
- 診療の質向上に寄与するが… 評価が難しい

循環器内科臨床医の業務内容を知り、その中には多くの事務作業が含まれていることがわかりました。外来診察にも変化があり、かつては看護師が介助していましたが、現在は医師事務作業補助者へ移行されたそうです。

主な循環器疾患の解説では、医師事務作業補助者の目線で、診療の補助・書類作成・医師との会話に必要なカルテを読むポイントを教わりました。急性心筋梗塞や不安定狭心症の治療は、できるだけ早く閉塞した冠動脈を再開通させる必要があり、時間との勝負になります（診療報酬にも影響するため）。医師事務作業補助者が、検査・注射・処方オーダー入力、放射線部・検査部への連絡、検査・治療の同意書や入院診療計画書の作成を代行することで、事務作業処理に費やす時間が短縮されていると述べられておりました。

医師事務作業補助者の導入前後での変化については、業務終了後に書類を記載するという負担がなくなり、その分、手術の予習や難しい治療を考える時間にできること。外来受診や検査の予約は、診察後、患者さんと医師事務作業補助者がやり取りをしてくれるため、診察室では病状について時間を使えることをあげられていて、患者さんと向き合う時間が増えて、診療の質が向上したとおっしゃっていました。

医師事務作業補助者と共に仕事をするに当たって、「医師側も協調が必要である」と、述べられていて、補助してもらうことを前提に、略語を少なくしたり、診断名・治療状況・経過などを整理して、カルテをわかりやく記載することで、医師事務作業補助者が情報を取りやすいよう配慮されていることに感銘を受けました。

急性冠症候群の治療

できるだけ早く閉塞した冠動脈を再開通させることで、心筋梗塞に至るのを阻止する（不安定狭心症）
心筋梗塞の進展を軽減する（急性心筋梗塞）

心臓カテーテルによるPCIが有効

完全閉塞 ワイヤー通過ステント留置 再灌流

Point!

診断が確かであればストップウォッチがスタート！
できるだけ早い再灌流が効果的
診療報酬（手術手技料）にも影響

効率的な事務作業処理が時間を短縮！

急性心筋梗塞であれば来院から90分以内の再開通
不安定狭心症であれば来院から24時間以内の手術開始

効率的な事務作業処理が時間を短縮!

本人への治療説明・同意
家族への治療説明・同意
術前検査の評価・判断
心臓カテーテル検査・治療の手技

検査オーダー入力
放射線部・検査部へ連絡
点滴・注射オーダー入力
処方オーダー入力
入院オーダー確定入力
入院診療計画書の作成
検査・治療の同意書作成・印刷

その後の質疑応答では、「医師が医師事務作業補助者に求めるレベル」についての質問に、座長の高橋副院長先生は、「医師と医師事務作業補助者がマンツーマンで、医師が外来や病棟に移動すると同行して、事務的作業を行い、手術室に入って、手術記録を記載する。研究では、カルテを読んで、データをピックアップできるようになると理想的です」とおっしゃっておいりました。

「医療安全の観点から事務職員が医師の仕事を代行する上で注意すること」についての質問には、「医学的知識が追いつくと、トラブルを回避できるようなカルテや書類の記載も習得できるのではないのでしょうか。医師事務作業補助者への信頼度が高まっても、医師側も代行された書類の内容確認が疎かにならないようにしないとイケませんね」とご返答されておいりました。

活発な質疑応答となり、直接医師からのご意見をうかがえて、私達実務者にとって、参考になり、励みになるご講演でした。

質問ブース開設

セミナー終了後、ご参加いただいた実務者のみなさんより日常業務でお困りのことについて、世話人がお話を伺いました。外来での医師事務作業補助者と看護師との役割分担についてなどのご質問をお受けしました。

この度、定員を超える参加申し込みをいただいたため、8月1日に同様の概要で追加開催することとなりました。こちらも定員となり、すでに申し込みは締め切らせていただきました。ご参加される実務者のみなさんのお越しを世話人一同お待ちしております。本セミナーの開催が、医師事務作業補助者の教育の一助となり、実務者のスキルアップにつながれば幸いです。

最後になりますが、ご参加いただいた実務者のみなさま、医師事務作業補助者へのご理解のもと、実務者を参加させて下さった病院管理者のみなさま、快く講師を引き受けていただいた藤井先生、事務局をはじめ、世話人のみなさん、セミナーの開催にご協力いただきましたすべてのみなさまに心より感謝申し上げます。

日本医師事務作業補助研究会 北海道支部 世話人 田中美穂
(手稲溪仁会病院 医療秘書課)